

2012 年度日本板鰓類シンポジウムおよびサメ・フォーラム報告

12月8日(土)と9日(日)に、大阪・海遊館を会場として2012年度日本板鰓類研究会シンポジウムとサメ・フォーラムが開催されました。開催中、関西圏にも寒波が押し寄せて、強風と関西とは思えないほどの寒さの中、いずれのイベントにも大勢の方にご参加いただきました。また、本年度は、長崎県、大阪府、宮城県から合計3校23名の高校生にも参加して頂きました。

12月8日に開催されたシンポジウムでは、80名を超える日本板鰓類研究会会員を中心とするサメ・エイ類研究者と愛好者にご参加いただきました。当日は、1課題の講演キャンセルがあったものの、前回は上回る24課題の口頭発表と8課題のポスター発表が行われました。今回のシンポジウムでは、これまで話題の中心となってきた古生物、形態、遺伝・系統、生態、生理および資源といった個別の分野だけでなく、複数の分野にまたがるテーマについての話題提供があるなど、相互連携の重要性が示された、新たな展開を予感させるシンポジウムとなりました。各課題15分という短い持ち時間の中、演者の皆さんには、持ち時間をフルに使って熱くご自身の研究成果を発表していただきました。さらに、講演に対する質疑も活発に行われ、有意義なシンポジウムになったと思います。



シンポジウム受付の様子①



日本板鰓類研究会・仲谷会長挨拶②



ポスター発表の様子③

シンポジウムに引き続き、海遊館 VIP ルームを利用して意見交換会が開催されました。意見交換会では、今回参加していただいた大阪府立茨木高等学校、長崎県立長崎鶴洋高等

学校、そして宮城県気仙沼向洋高等学校の皆さんに、各校の学校紹介をしていただきました。その後は短い時間ではありましたが、太平洋水槽をバックにシンポジウムで語り尽くせなかった議論の続きが繰り広げられました。意見交換終了後、海遊館のご厚意により夜の海遊館ツアーとなりました。普段見ることのできない夜のサメ・エイ達を観察することができ、参加者にとっては心に残る一時になったと思います。

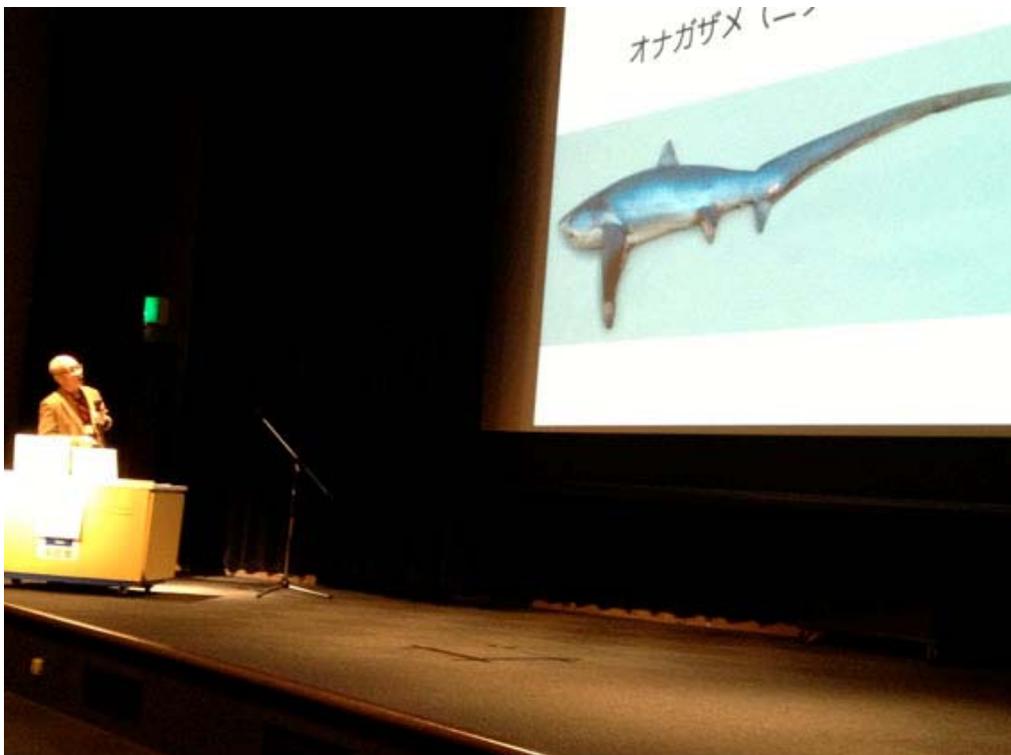
翌12月9日に開催されたサメ・フォーラムでは、事前受付に前日のシンポジウム参加者に加え、合計約130名の参加がありました。当日は、研究者によるサメの多様性や進化に関する解説や、海遊館スタッフによるサメの飼育に関する裏話など3課題の話題提供のほか、3校の高校生から研究成果が紹介されました。高校生の発表は、茨木高等学校からサメ・エイ類の摂餌生態に関する研究、長崎鶴洋高等学校からウチワザメの摂餌生態、アカエイの食性、ナルトビエイの保存性に関する研究、そして気仙沼向洋高等学校からは気仙沼におけるサメ類の水揚げ動向と食文化に関する研究が報告され、いずれも研究の完成度の高い研究報告であり、今後の成果が期待できる発表でした。また、研究発表に続きいてパネルディスカッションが行われ、研究者からサメの魅力や研究に至った動機などが紹介されたほか、高校生からは専門の研究者もどきとするほどの質問が投げかけられるなど、予定時間があつという間に過ぎてしまうほど楽しいディスカッションとなりました。最後に、日本板鰐類研究会と海遊館から参加していただいた各高等学校に記念品が贈呈され、2日間にわたるイベントは幕を下ろしました。



サメ・フォーラム受付の様子④



海遊館 西田館長による挨拶⑤



仲谷先生による講演の様子⑥



大阪府立茨木高等学校による研究報告⑦



長崎県立長崎鶴洋高等学校による研究報告⑧



宮城県気仙沼向洋高等学校による研究報告⑨



パネルディスカッション(全体)⑩



パネルディスカッション(高校生パネラー)⑪



記念品贈呈(大阪府立茨木高等学校)⑫



記念品贈呈(長崎県立長崎鶴洋高等学校)⑬



記念品贈呈(宮城県気仙沼向洋高等学校)⑭



会場概観⑮

本年度のシンポジウムは例年にもまして盛況でした。ご参加いただいたすべての皆様、共催として会場の提供から準備・進行にいたるまでお世話になった海遊館の皆様と長崎大学の皆様に厚く御礼申し上げます。

(文責 日本板鰓類研究会 幹事 後藤友明)